

## イエスは再び来られる

今日の箇所はマルコによる福音書 13 章 14 節から 37 節です。先週お話ししましたように、マルコによる福音書 13 章はすべて預言であり、イエスが地上を去った後に起こる出来事について弟子たちを準備しているのです。そして、今日の箇所では、神学者の間で何世紀にもわたって議論されてきた問題に触れます。議論されてきたのは、これらの出来事がいつ起こるかという点です。この箇所に述べられていることは、キリストが復活して天に昇られた後すぐに起きた出来事と、まだ起こっていない出来事が混在していると、私は理解しています。しかし、他の人は、キリストの再臨という一つの出来事を除いて、これらの出来事はすべてすでに起きた出来事であると、理解しています。また、他の人は、この箇所に書かれていることはすべて、まだ起きておらず将来起こることだと、理解しています。この箇所を読むにあたって、先週お話ししたイスラエルの歴史にとって非常に重要な出来事を心に留めておく必要があります。それは、紀元後 70 年にローマによって、エルサレムが破壊された出来事で、これは実質的なイスラエル国家の終焉を意味していました。国としてのイスラエルは、1948 年まで再び存在することはありませんでした。見解の相違が存在し、解釈が困難である原因は、イエスが言われたことの、どの部分が紀元後 70 年に起こったことで、どの部分がまだこれから起こることなのか、あるいは今起こっていることなのかを判断することが難しい点にあります。先週も言いましたように、全てのポイントを解決できるかどうかは分かりませんが、とにかくイエスの預言のポイントはそこではないのです。というのも、ポイントは、イエス・キリストが再臨されるという点にあるからです。

まず、14 節から 23 節までを見ていきましょう。キリストが来られる前の時代は、ますます全てのことが悪くなることを示しています。そして、この箇所を通して、イエスが主張していると思われる 3 つの異なるグループについて見ていきましょう。第一のグループはイスラエルです。14 節から 18 節には次のように書かれています。<sup>14</sup>「荒らす忌まわしいもの」が立ってはならないところに立っているのを見たら一読者はよく理解せよ—ユダヤにいる人たちは山に逃げなさい。<sup>15</sup>屋上にいる人は、家から何かを持ち出そうと、下に降りたり、中に入ったりしてはいけません。<sup>16</sup>畑にいる人は、上着を取りに戻ってはいけません。<sup>17</sup>それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。<sup>18</sup>このことが冬に起こらないように祈りなさい。これがイスラエルの人々を指していると私が考える理由は、ユダヤへの言及があることと、マタイがこれと同じイエスの言葉を記述しているときに、「『荒らす忌まわしいもの』が立ってはならないところ」とはエルサレム神殿の最も神聖な部分そのものであるという説明を付け加えていることからです。マタイによる福音書 24 章 15 節には次のように述べられています。<sup>15</sup>それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら一読者はよく理解せよ—。この箇所では、紀元後 70 年に神殿が破壊される出来事についてイエスが預言しているようにみえます。しかし、その後の箇所に行くと、イエスの言葉は、全世界が地球規模で経験することになる、より広い破壊に言及しているようにみえます。19 節から 20 節を見ると、<sup>19</sup>それらの日には、神が創造された被造世界のはじめから今に至るまでなかったような、また、今後も決してないような苦難が起こるからです。<sup>20</sup>もし主が、その日数を少なくしてくださらなかったら、一人も救われないでしょう。しかし、主は、ご自分が選んだ人たちのために、その日数を少なくしてくださりました。と述べられています。ローマのエルサレムの破壊は、(神の介入がなければ)すべての人間が滅ぼされるような影響を全世界に与えたわけではありません。19 節から 20 節は、艱難があること、すなわち、世界中のあらゆる人、あらゆる場所に影響を及ぼす苦しみと迫害の期間があることを指しています。先週、私たちは、破壊は戦争だけでなく、自然災害によってもたらされ、さらに悪化することを見てきました。マルコによる福音書 13 章 8 節には、**民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで地震があり、飢饉も起こるからです。これらのことは産みの苦しみの始まりです、**と書かれています。ヨハネの黙示録を読むと、非常に状況が悪化した艱難の時期について描かれています。この時期はキリストが地上を去ってから再臨するまでの間の全ての時期であると理解した方がよいと思われます。そして実際、ある時点でイエスが再臨しなければ、この世の罪の自然な流れとして、全ての人類が破滅に導かれるのです。

これが、私がディスペンセーション主義<sup>1</sup>に賛同できない理由の一つなのです。艱難の時期とは、一部の人々がヨハネの黙示録の解釈において主張している、7年間という期間に限定されたものではなく、キリストの再臨によって頂点に達した時に初めて終わる、艱難と迫害の期間を指していると、私は考えているのです。

それでは、イエスの再臨の理由に注目してください。この理由は、ここで取り上げられている第三のグループ、すなわち**真の教会**へと私たちを導いていきます。この艱難の時期は、すべての人間が殺されないように短縮され、その期間が短縮される理由は、**選んだ人たち**、つまり教会にあると、イエスは言っています。教会について、21節から23節に述べられています。<sup>21</sup>**そのときに、だれかが、「ご覧なさい。ここにキリストがいる」とか、「あそこにいる」とか言っても、信じてはいけません。<sup>22</sup>偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちを惑わそうと、しるしや不思議を行います。<sup>23</sup>あなたがたは、気をつけていなさい。私は、すべてのことを前もって話しました。**これは、艱難の時期には、偽りの宗教が台頭してくるという、弟子たちに対する警告であり、ひいては今日を生きる私たちに対する警告でもあります。つまり、私たちを取り巻く世界では、(災害などの)恐ろしいことが起こるだけでなく、教会に対する直接的な攻撃が起きることを預言しているのです。しかし、選びというこの言葉の中に、希望の光があります。「選び」という言葉を好まない人もいますが、選びは神の愛なのです。キリストによって救われ、神の子となるよう定められたということは、神の言葉である以上、取り消すことはできません。私たちが持つ唯一の真の希望は、この「選び」という驚くべき真理によってもたらされるのです。エペソ人への手紙1章4節から5節には次のようにあります。<sup>4</sup>**すなわち神は、世界に基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。<sup>5</sup>神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛を持ってあらかじめ決めておられました。**この神の恵みによる主権的な選びがあるからこそ、艱難や偽りの教師たちが、私たちをキリストへの献身から遠ざけようとしても、私たちは最後まで耐え忍ぶことができるのです。救いは私たちの行いや努力に基づくものではなく、神に基づくものです。だからこそ私たちは神の聖霊によって、こうした偽教師たちに抵抗する力を得ることができるのです。真にイエスに従う者、すなわち選ばれた民は、艱難の時代にあっても、イエスに固く立つことができるのです。そして、イエス・キリストの真の教会である教会は、ますます世俗的で神なき世界にあっても、教会の教義と教えを偽りの宗教から守り抜いていくことができるのです。

神の選ばれた民として私たちを支えているのは、キリストの再臨の約束なのです。そして、イエスが再臨される時、イエスは密かに来られるわけでもなく、世の大半の人々が知らないうちに来られるわけでもありません。**キリストの再臨は大地を揺るがすものなのです。**これが24節から27節に述べられています。<sup>24</sup>**しかしその日、これらの苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、<sup>25</sup>星は天から落ち、天にあるもろもろの力は揺り動かされます。<sup>26</sup>そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見ます。<sup>27</sup>そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。**これこそが、救いに選ばれた私たちの希望なのです！イエスは帰ってこられます。そして、私たちの周りにある他のすべてのものは、それがどんなに悪くなっても、地球の滅亡で終わるのではなく、その創造主である救い主が地上に戻ってくることによって、贖われるのです。そして、この再臨の時、イエスは、小さな赤ん坊としてではなく、征服する王として、この地上に来られるのです。黙示録19章11節から21節を読むと、キリストの再臨についてさらに力強い描写があります。11節から見ていくと次のように述べられています。<sup>11</sup>**また私は、天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は「確かで真実な方」と呼ばれ、義をもってさばき、戦いをされる。13節に飛んで、<sup>13</sup>その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のこと**

<sup>1</sup> ディスペンセーション主義（英語：Dispensationalism）：神の人類に対する取り扱いの歴史（救済史）が、七つの時期に分割されるとするキリスト教神学上の思想。（ヨハネの黙示録4：1、ヨハネに夜福音書14：1-3、1テサロニケ人への手紙1:10）

ば」と呼ばれていた。私たちが選びに預かることができるのは、イエスご自身が血を流されたからなのです。また、ヨハネによる福音書 1 章に述べられているように、イエスが御言葉の化身であることを私たちは、知っています。そして、16 節に述べられているように、イエスの力と栄光について疑う余地がありません。<sup>16</sup> その衣と、もものところには「王の王、主の主」という名が記されていた。そして、イエスが再臨される時、この世における神の支配を拒み、イエス・キリストを拒んだ者たちは、彼らが拒んだ方によって裁かれるのです。その裁きの様子は、最も生々しい言葉で、17 節に描かれています。<sup>17</sup> また私は、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。彼は大声で叫び、中天を飛んでいるすべての鳥たちに行った。「さあ、神の大宴会に集まれ。<sup>18</sup> 王たちの肉、千人隊長の肉、力ある者たちの肉、馬とそれに乗っている者たちの肉、すべての自由人と奴隷たち、また小さいものや大きい者たちの肉を食べよ。」悔い改め、神の憐れみを受け、罪から立ち返る機会を、私たちに与えるために、死んでくださった方の前では、誰も神の裁きを免れることはできません。王も、千人隊長も、力ある者も、自由人も、奴隷も、小さな者も、偉大な者も、イエス・キリストへの信仰によって神の目に義とされ、創造主に栄光をもたらす機会が与えられたにも関わらず、それを拒絶し、栄光をもたらすことができなかつたからこそ、彼らは裁かれるのです。これは、私たちに畏敬の念を抱かせる素晴らしい真理なのです！しかし、もしあなたが今日イエス・キリストを知らないなら、あるいはキリストを拒み続けるなら、どんな裁きが待ち受けているのかを明らかにする恐るべき真実となるでしょう。子供の頃、黙示録を読んだり、キリストの再臨についての説教を聞いたりして、イエスが再臨されたとき、「選び」に自分が預かれないのではないかと、死ぬほど怖くなったことを、私は今でも覚えています。もちろん当時は、すべての信者がいなくなり、未信者だけが地上に残るという携挙（けいきよ）<sup>2</sup>について、ディスペンセーション主義的な理解がより一般的な時代でした。このような（ディスペンセーション主義的な）理解を聖書が教えているとは、現在、私は思っていないが、イエスが再臨されること、そして再臨された際、イエスは「選び」に預かった者をご自身のもとに集める一方、その他の人たちを裁くことは真実であり、再臨がイエスを拒絶する人々にとって恐るべきものであることには変わりはありません。

キリストが再臨されるという真実、そしてその再臨について黙示録から今話したことは、私たちがキリストの再臨に備えなければならないということの意味しています。この章の終わりで、イエスは弟子たちにそう語っているのです。それでは 28 節から 36 節を読んでみましょう。<sup>28</sup> いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。<sup>29</sup> 同じように、これらのことが起こるのを見たら、あなた方は、人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。<sup>30</sup> まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。<sup>31</sup> 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることはありません。<sup>32</sup> ただし、その日、その時がいつなのかは、誰も知りません。天の御使いたちも子も知りません。父だけが知っておられます。イエスは、ご自分の再臨が近いことを弟子たちに認識させるための方法として、この預言を語られました。春に木が芽を出し始めるのを見て、夏が来ることを私たちは知るように、世界が崩壊し、艱難が来るのを見るからこそ、イエスが間もなく来られることを私たちは信じることができるのです！しかし、この最後の数節で私たちが理解しなければならないのは、イエスは 2 つの異なる時代と出来事について語っているように見えるという点です。14 節にあるように、エルサレムが陥落し、神殿が破壊され、人々がユダヤから逃げ出す出来事は、「この時代」、つまり弟子たちの世代がいなくなる前に起こる出来事を指しています。しかし、その後、イエスの言葉は再び、弟子たちだけでなく、私たちが今生きている時代も含めた残りの時代の出来事に言及しているようにみえます。事実、ローマの時代より、今の時代の方が世界は良くなっているとは言えないからです。過去 2000 年

<sup>2</sup> 携挙（けいきよ、英語: rapture）とは、プロテスタントにおけるキリスト教終末論で、未来の主イエス・キリストの再臨において起こると信じられていることである。まず神のすべての聖徒の霊が、復活の体を与えられ、霊と体が結び合わされ、最初のよみがえりを経験し、主と会う。次に地上にあるすべての真のクリスチャンが空中で主と会い、不死の体を与えられ、体のよみがえりを経験する。（Wikipedia より）（1テサロニケ人への手紙 4:16-17, 1コリント人への手紙 15:52）

の歴史を通して、多くのクリスチャンたちは、自分たちを取り巻く世界においてイエスが描写した艱難の出来事が起きていると感じ、これらの出来事はイエスが今日にでも来られる印として受け止めてきました。だからこそ、私たちはイエス・キリストの再臨が間近に迫っていることを信じていると言えるのです。イエスはいつ再臨されてもおかしくないのです。32節には、**ただし、その日、その時がいつなのかは、誰も知りません。天の御使いたちも知りません。父だけが知っておられます。**とあります。エルサレムの神殿は破壊されましたが、イエスは再臨されませんでした。だからといって、最初の弟子たちの信仰が揺らぐことはありませんでした。彼らは単に、それが艱難の歴史の中で起こる最初の出来事に過ぎないと理解していました。余談にはなりますが、キリストが再臨されるまで艱難の時はさらに悪化するというこの真理を知っている方に対して話しますが、私は神学的に後千年王国説<sup>3</sup>の立場をとっているわけではありません。キリストが再臨される前に、私たち教会が地上に平和の時をもたらすことができると、聖書が述べているとは私には思えません。

では、キリストの再臨に備えて私たちがすべきことは何なのでしょう？イエスは33節から34節で次のように教えておられます。<sup>33</sup>**気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたは知らないからです。**<sup>34</sup>**それはちょうど、旅に出る人のようです。家を離れるとき、しもべたちそれぞれに、仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているように命じます。**私たちがしなければならないことは、神が私たちに与えてくださった仕事に集中し、キリストがいつか戻って来られることを意識しながら、その仕事に忠実であり続けることなのです。私たちは皆、イエスから仕事を与えられているのです。それは、マタイの福音書28章19節の大宣教命令にはっきりと述べられています。<sup>19</sup>**ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、**とあります。私たちは弟子を作る働きに召されているのです。それだけでなく、私たちにはそれぞれ、キリストの体を愛し、キリストの体に仕える賜物が与えられているのです。ローマ人への手紙12章5節から6節には次のように書かれています。<sup>5</sup>**大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。**<sup>6</sup>**私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物をもっているのです。預言であれば、その信仰に応じて預言し、**と述べられています。皆さんは神に召された働きを日々していますか？自分の賜物を使って教会に奉仕することによって、キリストの体の中で他の人々を愛していますか？あなたはキリストの体（教会）を超えて様々な人々に手を差し伸べ、キリストを他の人々と分かち合うことによって弟子を作ろうとしていますか？いつかイエスは戻って来られます。イエスが再臨される時、神は私たちが霊的に目覚めていて、神が私たちに与えてくださった仕事に従順であろうとしているのを見いだすでしょうか。それとも、この世が提供するさまざまなものに目を向け、永遠にとって重要な神の仕事をないがしろにして、霊的に眠っている状態の私たちを見いだすでしょうか？私たちの永遠にとって重要なことは、神の御言葉の中にあり、決して過ぎ去ることはないのです。また、神の御言葉は決して変わることはありません。神の御言葉は、自分たちを取り巻く世界の苦難の中であって、それらのことに惑わされないようにする礎となります。ファニー・クロスビーが作った古いゴスペル・ソングに次のような歌詞があります。**一番、イエスがご自分のしもべたちに報いるために来られる時、それが昼であろうと夜であろうと、イエスに忠実な私たちが、ランプを明るく整え、見守っているのを見つけられるだろうか？兄弟よ、準備ができていると言えるだろうか？魂の明るい家への準備はできていると言えるか、兄弟よ。主は、あなたがたやわたしが、主が来られる時、まだ見ておられるのを見いだされるであろうか。イエスは戻って来られます！皆さんは準備万端でしょうか？祈りましょう。**

---

<sup>3</sup> 後千年王国説（英語：Post-millennialism）：イエス・キリストの再臨が千年王国の成立後に起こると考える神学的な立場。（マタイによる福音書24:21-22, 13:41-43, 24:38-29）

## Mark 13:14-37 Jesus Christ will come back!

Today's passage is Mark 13:14-37. As I pointed out last week, all of Mark 13 is prophetic as Jesus tries to prepare his disciples for what will happen after he leaves the earth. And today's passage really gets into some real sources of arguments that date back centuries between various theological systems. The issue is the timing of these events. What I see in this passage is a mixing of events that will happen soon after Christ's resurrection and ascension back into Heaven, and events that are still to happen. Others see all of these events except one, Christ's return, as having already happened. And still other say that everything in this passage is still to come in the future. As we look through this passage we have to keep in mind one event that is very important to the history of Israel that I talked about last week. It is the destruction of Jerusalem and essentially the end of the nation of Israel that took place in AD70 at the hands of the Roman army. Israel as a national political entity would not exist again until 1948. The disagreement and difficulty comes in determining which parts of what Jesus says happened in 70AD and what if any is still to come or happening now. I don't know that I can solve that today, and as I said last week, that is not the point of prophecy anyway. The point that Jesus is making with this prophecy is that he is coming back!

Let's begin by looking at verses 14 – 23 that shows us that **The time before Christ's coming will be increasingly bad.** And I want to go through this passage and show the three different groups that Jesus seems to be addressing here. The first we see is *Israel*. Verses 14-18 say, <sup>14</sup>“**But when you see the abomination of desolation standing where he ought not to be (let the reader understand), then let those who are in Judea flee to the mountains. <sup>15</sup> Let the one who is on the housetop not go down, nor enter his house, to take anything out, <sup>16</sup> and let the one who is in the field not turn back to take his cloak. <sup>17</sup> And alas for women who are pregnant and for those who are nursing infants in those days! <sup>18</sup> Pray that it may not happen in winter.** The reason I say that this applies to Israel is the reference to Judea, and the fact that when Matthew gives this same account of Jesus's words, he adds the clarification that “**where he ought not to be**” seems to be in the holiest part of the Jerusalem temple itself. **Matthew 24:15 says, <sup>15</sup> “So when you see the abomination of desolation spoken of by the prophet Daniel, standing in the holy place (let the reader understand)** This seems to be Jesus still prophesying about the event that would see the destruction of the temple in AD70. But then Jesus's word seem to expand to a broader application to something the entire *world* will experience on a global scale. Verses 19-20 say, <sup>19</sup>“**For in those days there will be such tribulation as has not been from the beginning of the creation that God created until now, and never will be. <sup>20</sup> And if the Lord had not cut short the days, no human being would be saved. But for the sake of the elect, whom he chose, he shortened the days.** The destruction of Jerusalem did not affect the world in such a way that every human being would be destroyed unless God intervened. This should lead us to understand that there is a tribulation, a period of suffering and persecution that will affect everyone and everywhere in the world. We saw last week that destruction would not just come through wars, but through natural disasters that would get worse. **Mark 13:8 tells us, <sup>8</sup> For nation will rise against nation, and kingdom against kingdom. There will be earthquakes in various places; there will be famines.** When we read the book of Revelation, there is a period of tribulation described that gets worse the further it goes, and it seems best to understand that this period is all the time after Christ leaves the earth to the time he returns. And in fact, Jesus seems to be saying that the natural course of sin in the world would lead to the destruction of the human race if Jesus does

not return at some point. This is one reason why I can't be a dispensationalist. The time of tribulation does not seem limited to a period of seven years that some read into Revelation, but more of an increasingly difficult period of tribulation and persecution that will only end when it culminates in Christ's return.

Then notice the reason for that return, which leads us into the third group addressed here which is the *true church*. He says that this period of tribulation would actually be shortened in such a way that not every human would be killed, and the reason for this is his *elect*- in other words, the church. We see the church addressed in verses 21-23.

<sup>21</sup> And then if anyone says to you, 'Look, here is the Christ!' or 'Look, there he is!' do not believe it. <sup>22</sup> For false christs and false prophets will arise and perform signs and wonders, to lead astray, if possible, the elect. <sup>23</sup> But be on guard; I have told you all things beforehand. This is a warning to his disciples, and by extension to us as well, that false religion would be on the rise during this period of tribulation. So, not only will there be fearful things happening in the world around us, but direct attacks on the church as well. But there is a giant light of hope here in this one little word – *elect*. Some people don't like the term election, but the truth of God's electing love. His predestination of us to salvation and to sonship through Christ means that since it is God's word, it can not be undone! The only real hope that we have comes through this incredible truth of Election. As Ephesians 1:4-5 clearly tells us, 4 even as he chose us in him before the foundation of the world, that we should be holy and blameless before him. In love 5 he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will. This sovereign election of us by God's grace is what makes it possible to persevere to the end in spite of tribulation and false teachers trying to get us to fall away from our commitment to Christ. Since salvation is not based on our works or effort but on God's, we can find strength through his Holy Spirit to be on guard against these false teachers. Those who are truly followers of Jesus, the elect, will stand firm even in the face of tribulation. And those churches that are true churches of Jesus Christ will guard and protect the doctrine and teaching of the church from false teaching, even when it gets harder and harder to do so in an increasingly more secular and godless world.

What keeps us going as God's elect is the promise of Christ's return. And it will not be a secret return, or something that is not noticeable to most of the world. **Christ's coming will be earth shattering.** This is what we see in verses 24-27.

<sup>24</sup> "But in those days, after that tribulation, the sun will be darkened, and the moon will not give its light, <sup>25</sup> and the stars will be falling from heaven, and the powers in the heavens will be shaken. <sup>26</sup> And then they will see the Son of Man coming in clouds with great power and glory. <sup>27</sup> And then he will send out the angels and gather his elect from the four winds, from the ends of the earth to the ends of heaven. This is the hope we have as those who have been elected to salvation! Jesus is coming. Everything else we see around us, no matter how bad it gets does not end in the earth's destruction, but in its redemption as its creator, our Savior returns to the earth. And this Advent, this appearing, is not as a tiny baby, but as conquering king. When we read Revelation 19:11-21, we see an even more powerful description of Christ's return, that we call his Second Coming. Starting with verse 11 we read, Then I saw heaven opened, and behold, a white horse! The one sitting on it is called Faithful and True, and in righteousness he judges and makes war. Then verse 13 He is clothed in a robe dipped in<sup>[b]</sup> blood, and the name by which he is called is The Word of God. It is only by the shed

blood of Jesus's own blood that we are part of the elect, and we know from John 1 that he is the incarnate Word of God. And there will be no doubt about his power and glory as verse 16 goes on to say, <sup>16</sup>On his robe and on his thigh he has a name written, King of kings and Lord of lords. And at that time, those who reject God's rule in this world, and have rejected Jesus Christ will be judged by the one they rejected. That judgement is described in the most graphic of terms as we read in verse 17. Then I saw an angel standing in the sun, and with a loud voice he called to all the birds that fly directly overhead, "Come, gather for the great supper of God, <sup>18</sup>to eat the flesh of kings, the flesh of captains, the flesh of mighty men, the flesh of horses and their riders, and the flesh of all men, both free and slave, both small and great." No one is exempt from God's judgement before the one who died for them to have the opportunity to repent and turn from their sins and receive God's mercy. Kings, Captains, the mighty, the free, the slave, the small and the great are judged for their failure to bring glory to their Creator by being made righteous in God's eyes through faith in Jesus Christ. This is an awesome truth in its full definition of being awe-inspiring! But if you don't know Jesus Christ today, then this should be a fearful picture of what judgement awaits you if you continue to reject Christ. I remember as a child reading Revelation and hearing sermons on Christ's return, and being scared to death that I would not be one of those elect that Jesus was coming to bring to himself. Of course, at that time it was a more dispensational understanding of a secret rapture where all the believers would be gone and only unbelievers would remain on earth. While I don't believe that the Bible teaches that, the truth remains that Jesus is returning, and that return will be fearful for those he comes to judge as he gathers his elect to himself.

The truth that Christ is coming, and what we have just talked about from Revelation about that return means that **we must prepare for Christ's return**. That is what Jesus tells his disciples as this chapter ends. Let's read verses 28-36. <sup>28</sup>"From the fig tree learn its lesson: as soon as its branch becomes tender and puts out its leaves, you know that summer is near. <sup>29</sup>So also, when you see these things taking place, you know that he is near, at the very gates. <sup>30</sup>Truly, I say to you, this generation will not pass away until all these things take place. <sup>31</sup>Heaven and earth will pass away, but my words will not pass away. <sup>32</sup>"But concerning that day or that hour, no one knows, not even the angels in heaven, nor the Son, but only the Father. <sup>33</sup>Be on guard, keep awake.<sup>[a]</sup> For you do not know when the time will come. <sup>34</sup>It is like a man going on a journey, when he leaves home and puts his servants<sup>[b]</sup> in charge, each with his work, and commands the doorkeeper to stay awake. <sup>35</sup>Therefore stay awake—for you do not know when the master of the house will come, in the evening, or at midnight, or when the rooster crows, or in the morning— <sup>36</sup>lest he come suddenly and find you asleep. <sup>37</sup>And what I say to you I say to all: Stay awake." Jesus says that he has told his disciples all of this prophecy as a way to help them recognize that his coming is close. Just like you see a tree start to put on buds in the Springtime and know that Summer is coming, you see the world seem to fall apart and tribulation seem to come and can trust that Jesus is coming soon! What we have to see here in these final verses, though, is that Jesus seems to still be speaking about two different prophetic periods and events. The one where Jerusalem will fall, the temple will be destroyed and people will flee from Judea as verse 14 says, will happen before "**this generation**" in other words, the disciples generation is gone. But after that his words again seem to expand beyond the disciples to the rest of time including when we live now. The fact is the world has not gotten better since Rome, the world has gotten substantially worse in many ways. Christians in nearly every generation

throughout the last 2000 years of history have looked at the world around them and seen the tribulation and events that Jesus described and taken that as a sign of his coming. That is why we can say that we believe in the imminent return of Jesus Christ. He could come at any time. As verse 32 says, **But concerning that day or that hour, no one knows, not even the angels in heaven, nor the Son, but only the Father.** So, the temple fell, but Jesus didn't return. That did not shake the faith of these first disciples. They simply understood that was just one thing that would happen in a history of tribulation to come. Just as an aside, for those who may be familiar with it, this truth that the time of tribulation gets worse until Christ's return, leads me to not be post-millennial in theology. I don't see from Scripture how we as the church could usher in a time of peace on earth before Christ's return.

So, what is it that we are to do in preparation for Christ's return? Jesus tells us right here. Verses 33-34 say, **<sup>33</sup> Be on guard, keep awake.<sup>[a]</sup> For you do not know when the time will come. <sup>34</sup> It is like a man going on a journey, when he leaves home and puts his servants<sup>[b]</sup> in charge, each with his work, and commands the doorkeeper to stay awake.** We focus on the work that God has given us to do and keep faithful to that task, aware that Christ is coming back at any time. All of us are given a task. It is found in the Great Commission in **Matthew 28:19. 19 Go therefore and make disciples of all nations,** We are called to the work of making disciples. Not only that we are each given gifts to love and serve the Body of Christ with. **Romans 12:5-6 says in part... we, though many, are one body in Christ, and individually members one of another. 6 Having gifts that differ according to the grace given to us, let us use them:** Are you doing the work that God has called you to? Loving others in the Body of Christ by using your gifts to serve in the church? Are you reaching out beyond the Body of Christ and seeking to make disciples by sharing Christ with others? One day Jesus will come back. Will he find us spiritually awake, seeking to be obedient to his work he has given us? Or will he find us spiritually asleep focused on all the different things this world has to offer, but neglecting the things of God that matter for eternity? Those things that matter for eternity are found in His Word, that will never pass away. God's Word will never change. It provides an anchor for us in the tribulation of the world around us. **An old Gospel song written by Fanny Crosby says, 1 When Jesus comes to reward His servants, Whether it be noon or night, Faithful to Him will He find us watching, With our lamps all trimmed and bright? O can we say we are ready, brother? Ready for the soul's bright home? Say, will He find you and me still watching, Waiting, watching when the Lord shall come?** Jesus is coming back! Are you ready, and are you expecting his return? Let's pray.